

座・ガモールファーム 通信

Vol. 9 | 2023.09.01



昨年の9月に収穫された野菜の様子。右からオクラ・ニンジン(間引いたもの)・ししとう。下はナス。
稲が^{しゅっすい}出穂しました。夏野菜も終わりの頃。

残暑の頃

残暑もまだ厳しい折、皆様いかがお過ごしでしょうか。とはいえ、風などに初秋を感じさせる気配もありますね。

座・ガモールファームでも農園の様子を秋を感じさせます。7月・8月に最盛期を迎えた夏野菜の収穫は終わりに近づいてきました。一方、5月に田植えを行った稲はついに^{しゅっすい}出穂しました。出穂とは、稲のさやを割ってうす緑色の穂が出てくることを言

います。そして穂が出た後、稲はすぐに開花したった203時間でさやは再び閉まってしまいます。この後は、穂が出てから35~45日の間で、穂全体の90%が黄金色になる頃が収穫期だそうです。先月号では稲の開花する温度について触れましたが、とても興味深い植物ですね。(小池)

参考
JA「穂が出てからお米になるまで」



受粉して穂が膨らみ始めている稲



今月の活動

キャンパス農園班

こんにちは！キャンパス農園班の藤原です！

8月に引き続き9月も暑い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？自分は基本家を出られなくなってしまいました。（笑）

キャンパス農園班はこの夏休みで、埼玉校舎を訪れたり、大学に来て野菜の収穫を行いました！ほとんどの班員が埼玉校舎に行くのは初めてで、皆楽しんでくれていました。大学で栽培しているものとは違う種類の野菜であったり、規模も大きく、設備も整っているので、非常に刺激になったのではないかと思います。ここで学んだことを、大学での活動にも活かせれば良いです！

大学での野菜の収穫は、これまで学校生活で忙しく満足に行えていなかったのので、一気にできてよかったです。一回に収穫でカゴいっぱい取ることができました！参加した班員からも、楽しかったや、普段からもっと参加したい！との声が上がりました。自分たちで消費するのも難しいくらいの量なので、これを読んだ方にもぜひ、もらっていただきたいです！大学で栽培したものは自由に取ってもらって大丈夫ですので、遠慮せず！

秋学期では、大学でのイベントがほとんど無くなってしまいます。そのため皆様に農園での活動をより深く知って頂けるような、活動を行っていかうと考えています。特に普段の水やりは？この栽培方法は？など農園の「特殊」な部分にスポットを当てていかうと考えています。乞うご期待！（藤原）

(埼玉校舎での写真↓)

(↓収穫した野菜の 写真)



座・ガモールファーム



南門広場で収穫時期を迎えた野菜

9月になり、野菜も少しづつ入れ替わりの時期がきています。テラスではまだバジルが青々と茂っていますが、その他の野菜はかなり落ちてきました。サツマイモのつるも順調に伸びていますので、収穫が期待できそうです。

さて、ガモールファームでは毎年この季節になると、南門広場や埼玉校舎のレイズドベッドで「亀戸大根」や「金町こかぶ」といった「伝統野菜」と呼ばれる野菜を栽培しています。伝統野菜とはそれぞれの地域で古くから栽培されてきた在来野菜のことで、栽培されていた地域の名前が入っていることと、品種によって味や見た目に違いがあることが特徴です。ガモールファームでは元々大正大学が連携している地方自治体の伝統野菜を栽培するという活動を行っていましたが、最近では「滝野川ごぼう」など、大学周辺地域である巣鴨や滝野川で栽培されていた伝統野菜の栽培も始めています。

また、大学の南門広場では、豊島区の郷土資料館と連携し巣鴨、滝野川地区の伝統野菜や、旧中山道の種子屋街道としての歴史について知ることのできる看板の設置も行っています。看板がある広場では伝統野菜以外にもモロヘイヤや空心菜、つるむらさきといった気軽に収穫ができる野菜も多く栽培しています。もし機会がありましたら是非お立ち寄りください。（山本）

詳細はこちら

座・ガモールファームの詳細はこちらから見るができます。Instagram、note、YouTubeに画像や動画がたくさんあり、Twitterではイベント告知をするのでぜひご覧ください。

